

渋谷の福祉を考える⑪

—ネットワーク—

障がいのある人の
安心・安全な暮らしの実現に向けて

現在渋谷区では福祉計画に基づき、様々なつながりが生まれています。歓迎すべきことである一方で、今後の課題はどこにあるのか、何が必要なのか、渋谷の現状をお伝えしつつ、考えていきます。

●福祉計画の基本理念

今年、2019年は「第6次渋谷区障がい者保健福祉計画」「第5期渋谷区障がい福祉計画」「第1期渋谷区障がい児福祉計画」の中間年にあたります。次期計画の策定年度を控え、早くも今年の秋には区民の参加による意見交換会も予定されており、自立支援協議会の各部会にもわかに忙しくなってくると思われれます。2012年の暮れに設立された自立支援協議会は今年、丸7年を迎え、渋谷区の積極的な動きに呼応するように各部会が能動的な動きを見せていますが、その中で重要なキーワードとして幾度となく登場してくる言葉があります。それが今回、特集で取り上げる「ネットワーク」。今渋谷区は福祉分野のみならず空前の「ネットワークブーム」ではないかと思うほど色々なところに色々なつながりが生まれています。そしてこのこと自体は大いに歓迎すべきことだと思っています。

福祉分野に話を戻し、現在進行中の福祉計画の基本理念と、3つの基本目標に注目します。改めてになりますが、基本理念は「誰もが自分らしく暮らせるまち しぶや」。基本目標は「自己決定を支える相談体制」「切れ目のない支援」「互いを理解し支え合う地域」となっています。そしてそのどれもに登場するキーワードが「ネットワーク」なのです。

●渋谷の現況

前述の福祉計画の基本理念に基づき、今渋谷では様々なネットワークが構築されつつあります。その全てを網羅するのは大変時間のかかる作業ですが、ここでは自立支援協議会を中心に、可能な限り挙げてみました（図-1参照）。法律で定められたもの、公的に認められたもののほか、自主的なネットワークも含まれますが、これでも不足している動きが多々あると思います。おおまかに調査しただけでもこれだけの関係機関があり、これだけのネットワーク（★印）ができつつあります。福祉計画で謳われている、「切れ目のない支援」に向けて、現在自立支援協議会では「ライフステージにおいて、切れ目がどこに発生するのか」という議論を進める一方で、各部会を中心に「療育～教育～就労～生活～高齢」というライフステージをつなぐ作業を進めていこうとしています。

●ネットワークには3つの段階がある？

渋谷区の現状から少し離れますが、以前NPOの全国会議でネットワークについて話を聞いたことがあります。それによると、その発展には3つのステップがあるとのことでした。

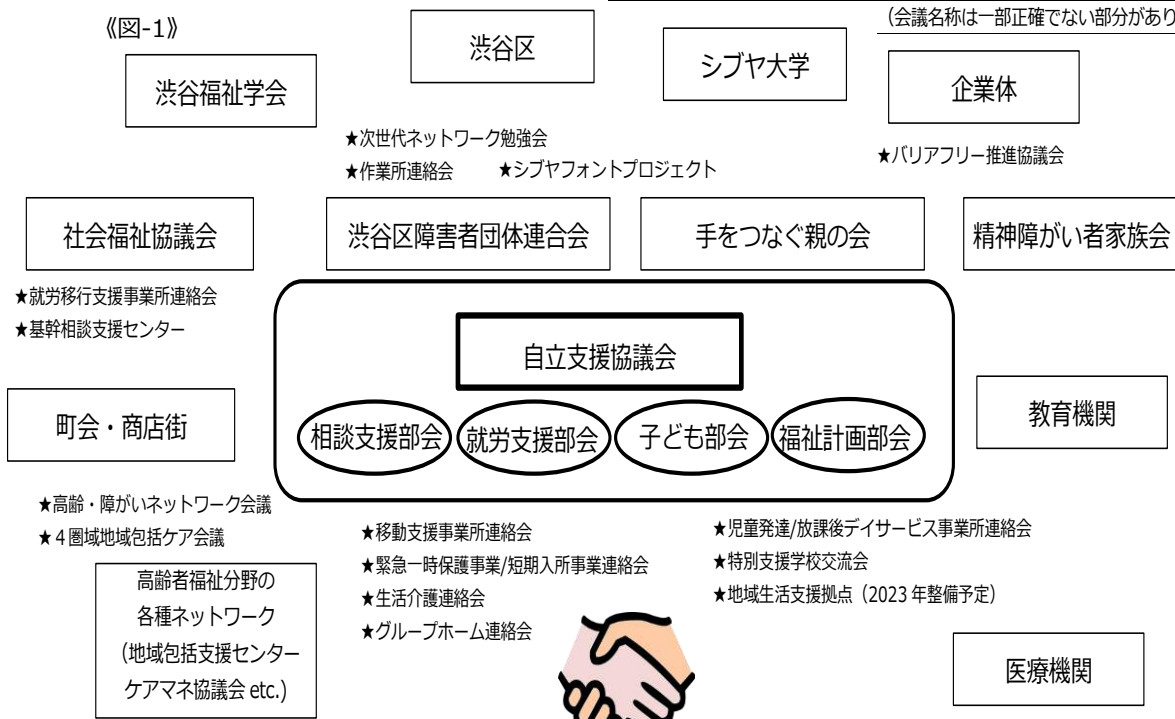
①顔つなぎ段階

どんな目的で作られるネットワークでも最初はこの「顔つなぎ」という段階を

※自立支援協議会作成「協議会を中心としたネットワーク構成図」に加筆修正

（会議名称は一部正確でない部分があります）

《図-1》



経ていきます。言い換えれば「顔の見える関係づくり」がネットワークの第1段階です。組織、個人などお互いのバックグラウンドを知ることから始まる、第1ステップとのことでした。

②情報共有段階

お互いの顔が見えてくると、次は「情報共有段階」に移行します。互いの持っている情報や知識などを交換し、場合によっては物的、人的な資源、お互いが持つネットワークをつなげるといった作業も行なわれるようになります。

③課題解決段階

ネットワークの本来の目的はこの「課題の解決」にほかなりません。共通の課題、あるいはある一方の課題を解決するために協働して取り組む、他のネットワークとの連携をはかる、など能動的に動く段階に移行します。

●高齢者の見守りネットワークに学ぶ

現在ばれっとも直面している「利用者や家族の高齢化」について、地域包括支援センターやケアマネージャーとの連携も増えてきましたが、昨年12月に事例発表を聞いた、大田区の地域包括ケアシステム「みま～も」は今後のネットワークのあり方を考える参考になりました。急なトラブルに備えて、高齢者が個々の情報を記載したキーホルダーを持ち、その管理を地域包括支援センターが行なうという「高齢者見守りキーホルダー」やニーズを発掘する場となっている「地域づくりセミナー」の開催、個人や会社が地域社会に貢献できることを自ら発信する「おおた登録事業」、そして気軽に立ち寄れる「見守りステーション」の運営など、地域社会ネットワークの工夫がいたるところに見受けられました。もちろん、同じ東京23区とは言え、大田区と渋谷区で

は地域も違い、システムがそのまま使えるとは限りませんが、鹿児島、群馬、大阪など、都市部、農村部問わずこの仕組みが広がっている状況を見ると、地域社会に柔軟に合わせた形で発展してきていることが伺えます。

●課題はどこに？

渋谷区におけるネットワークの課題はどこにあるのでしょうか。そのことを考える前に、前述した3つのステップに補足をしたいと思います。「①顔つなぎ」「②情報共有」「③課題解決」の3つの段階を紹介しましたが、要は日常的に①と②が行なわれていれば、緊急の課題が発生した際にも即対応しやすいというところが大きなポイントとなるということです。組織と組織がつながるようなネットワークでも、基本は「人」。顔が見えるというのは「〇〇事業所の〇〇さん」「〇〇商店の〇〇さん」と言った個人の顔まで見える関係を日常的に作っておくこと、というのが基本となります。

今回の取材や考察を通して、課題として考えたのは、

- ①ネットワーク間の情報共有
- ②全体をデザイン、コーディネートできる組織や個人の存在
- ③ネットワークを維持するための労力の負担感

です。①については、ネットワークは渋谷区に多々あれども、それぞれの取り組みについての発信がなかなか外へ届きにくいという問題です。もちろんインターネットや区報で情報公開されていますが、それでもなかなか個々の手元に届き

きらないという現状があります。これは②にも関連してきますが、情報を集約する機関や場所を極力絞ることができればある程度整理されるかもしれません。②は③とも関連しますが、前述の大田区の例も含めて成功事例として挙げられるネットワークにはほとんどと言って良いほどキーマンやキーとなるグループが存在しています。それは社会福祉協議会であることもあれば、病院や学校であることもあります。あるいは町会長や民生委員などの個人である例もあります。こうした人や組織が全体をデザインして、大きくゆるやかな、しかし緊急の場合には、そのネットワークのどこからでも速やかに稼働できるつながりを構築できるかがカギとなります。しかし③の課題にもあるように、ネットワークの基本は人とすれば、多種多様な人たちが集まる地域社会において、そのつながりを維持運営することは並大抵のことではありません。個人情報保護や人権問題なども絡んでくると、どこまで手をつなげるか、大きな課題もあります。

●まとめ

様々な考察をしてきましたが、成功事例として紹介されるネットワークづくりで、関係者皆が口にするのが、「楽しい」ということです。地域に出かける場所があつたり、話す相手がいたり、情報を共有したり、助けたり、助けられたり……。確かに面倒なこともあります。このやりとりを「楽しい」と思うことができ、自分が社会の一員として役にたっているという実感を持てること、これがネットワークの基本のように思いました。

（事務局長 南山達郎）